

2020年7月15日

日本多胎支援協会の協力のもと、江崎グリコが多胎児家庭を支援

本日から1年間、「液体ミルク」を専用価格で

江崎グリコ株式会社は、一般社団法人日本多胎支援協会の協力のもと、同協会から紹介された、粉ミルク・液体ミルクを使用する多胎児家庭への育児支援策を開始。本日7月15日より1年間、江崎グリコの乳児用液体ミルク「アイクレオ赤ちゃんミルク」を支給品として、専用価格にて提供いたします。

●今回の多胎児家庭支援に至った経緯

双子や三つ子などを育てる多胎育児においては「授乳回数の多さ」「睡眠不足」「過大な心身への負担」など過酷な実態が問題となっています。加えて昨今多発する自然災害、新型コロナウイルス感染症をめぐる状況もこの問題に拍車をかけています。これらの状況下、江崎グリコとして育児負担の軽減に寄与できることを考える中で、「多胎児をもつご家庭への支援」というミッションを掲げる日本多胎支援協会の協力をいただき、当社の「液体ミルク」を使った支援を実施することとなりました。

●液体ミルクを通じた多胎児家庭支援を実施

これに先立ち、日本産前産後ケア・子育て支援学会と日本多胎支援協会が授乳時期の多胎児を持つ母親を対象に行った調査によると、母親は特に「授乳回数の多さ」に大きなストレスを感じていること、液体ミルクの使用が心の余裕作りや生活の充実度上昇に寄与することなどが分かりました（調査結果は補足資料参照）。

そこで今回、液体ミルクを利用した支援策として、本日7月15日より、日本多胎支援協会の役員が関わる全国の多胎支援団体を通じ、多胎児をもつご家庭に対し、江崎グリコの乳児用液体ミルク「アイクレオ赤ちゃんミルク」を専用価格での提供を開始します。

●育児負担軽減を目指し、日本初の『乳児用液体ミルク』を発売

江崎グリコでは、2019年3月、日常的な育児に関する負担軽減に寄与するため、国内で初となる乳児用液体ミルク『アイクレオ赤ちゃんミルク』を発売しました。液体ミルクは赤ちゃんにいつでも・どこでも・誰にでも手間なくミルクを飲ませられるため、時間だけではなく身体的、精神的にも余裕が持てるとの声をいただいています。

江崎グリコは、当社の社会貢献活動の一環として、液体ミルクの活用が授乳時間の短縮や母親以外の方の授乳をうながし、多胎児をもつご家庭の育児負担軽減につながることを期待しています。

【多胎児家庭支援 概要】

【実施期間】 本日7月15日から1年間

【対象者】 粉ミルクを使用している多胎児をもつご家庭。但し、今回の支援は日本多胎支援協会の役員が関わる、多胎支援団体より紹介を受けたご家庭に限り支援をスタートします。（登録を希望するご家庭には、グリコお客様センターからは、液体ミルク支援の窓口としてNPO法人つなげるをご紹介します）。今後、取り組みは順次全国の多胎ネット及び多胎サークル等へ拡大する予定です。

【ご支援内容】

- ① 【通年】 1家庭につき1回の申込で『アイクレオ赤ちゃんミルク』1セット（48本）を専用価格で提供
価格：税込4800円（送料込）

※申し込み回数に制限はございません。また1回の申込におけるセット数上限もございません。

ただし同一住所に複数の申込みが確認された場合などは、内容を確認させていただく場合があります

- ② 【不定期】 1家庭につき1回の申込で賞味期限3か月未満の『アイクレオ赤ちゃんミルク』1セット（12本）を専用価格で提供

価格：税込510円（送料込）

※申込は提供時ごとに、1家庭につき1回限り、上限は2セットまでとなります

※実施時期は在庫の状況によります。確定次第、各多胎ネットから詳細を案内します

【実施方法】

- ・今回ご協力いただく多胎支援団体から各ご家庭への案内
各多胎支援団体会員専用サイト、会員宛のメール、郵送などで、専用申込サイトを案内します。
※なお、本日から案内を開始するのは、次の10団体です。
多摩多胎ネット、しずおか多胎ネット、NPO 法人ぎふ多胎ネット、一般社団法人あいち多胎ネット、
NPO 法人いしかわ多胎ネット、おおさか多胎ネット、NPO 法人つなげる、ひょうご多胎ネット、
ツインズクラブ久留米、さが多胎ネット
- ・各ご家庭から江崎グリコへの申込
上記団体から案内された専用申込サイトにログイン後、必要事項を記入して申込を行います
- ・配送
グリコダイレクトショップから各ご家庭へ直接配送します

【一般社団法人日本多胎支援協会とは】

一般社団法人日本多胎支援協会（JpMBA=Japan Multiple Births Association）は平成22年2月22日（2が5つ連なる日＝ツインズデー）に当事者・専門職・研究者が理事となって発足した一般社団法人です。保健、医療、福祉、保育・教育、子育て支援、行政など地域の様々な社会資源との連携によってより幅広くきめ細やかな活動をしながら多胎支援の輪を広げ、日本中どこでも多胎児を安心して産み育てることができる社会の実現をめざすことを目的としています。

【日本多胎支援協会理事コメント】 布施晴美代表理事

2020年4月、国の施策として、これまでの産前・産後サポート事業の中に、多胎妊産婦に特化した支援の補助予算が設けられました。これは多胎家庭に対して、よりきめ細やかな支援が必要であると国が認めたといえます。多胎育児の中で緊張感や負担感を高めているものの一つに授乳があります。授乳は乳児にミルクを飲ませるだけの行為ではなく、それらを取り巻く状況も負担となります。調乳にかかる時間や準備、その際に泣き止まない乳児たち、外出時の授乳のための多くの荷物、外出先での調乳場所の確保などです。液体ミルクの存在は、授乳を取り巻く状況に少しでも余裕をもたらすものの一つとなると思います。多胎家庭にこうした支援の広がりも期待したいです。



【「アイクレオ赤ちゃんミルク」について】



商 品 名	アイクレオ赤ちゃんミルク
販 売 チ ャ ネ ル	全国のドラッグストア・ベビー専門店 自社通販サイト（グリコダイレクトショップ）等
希望小売価格	（税別）200円
賞 味 期 限	6か月
保 存 方 法	常温を超えない温度で保存
内 容 量	125ml
許 可 表 示	母乳は赤ちゃんにとって最良の栄養です。 「アイクレオ赤ちゃんミルク」は母乳が不足したり 与えられない場合に母乳の代わりをする目的で作られたものです。

補足資料

日本産前産後ケア・子育て支援学会、日本多胎支援協会 共同調査報告 液体ミルクの使用を通じた、多胎児の母親が感じる 「気持ちの余裕」「生活の充実度向上」についての考察

～ 4人に3人が液体ミルクの使用で「気持ちの余裕」を実感。授乳者の多様化もうながす結果に ～

日本産前産後ケア・子育て支援学会と一般社団法人日本多胎支援協会は、1歳未満の多胎児を持つ112人の母親に乳児用液体ミルクを配布・使用いただき、育児環境や意識の変化などについてアンケート調査を実施しました。調査の結果、液体ミルクの使用が、多胎児の母親の気持ちの余裕作りや生活の充実度向上に寄与することが分かりました。

<調査結果の概要>

- ① 多胎育児をする母親の約9割が「授乳回数の多さ」にストレスを感じている
- ② 液体ミルクを使用した母親の7割以上が「調乳の時間や手間が軽減された」と、利便性を実感
- ③ 授乳者は、配偶者/パートナー、祖父母などに広がりを見せ、ワンオペ育児脱却にも効果
- ④ 液体ミルクの使用は、「育児に対する気持ちの余裕」を増加させ「生活の充実度」向上に寄与

【調査概要】

【調査実施期間】2020年1月26日～2月25日

【対象者】各多胎ネットにご登録の1歳未満の多胎児を持つ母親112名（2020年1月末時点）

【調査方法】ホームユーステスト

赤ちゃん1人につき、江崎グリコの乳児用液体ミルク「アイクレオ赤ちゃんミルク」を180本配布（使用期間：2週間）。使用前後にWEBアンケートを実施し、意識の変化を確認

【検証事項】多胎育児における授乳ストレス、液体ミルク使用による多胎育児における行動・意識の変化

【調査実施者】日本産前産後ケア・子育て支援学会、日本多胎支援協会（協力：江崎グリコ株式会社）

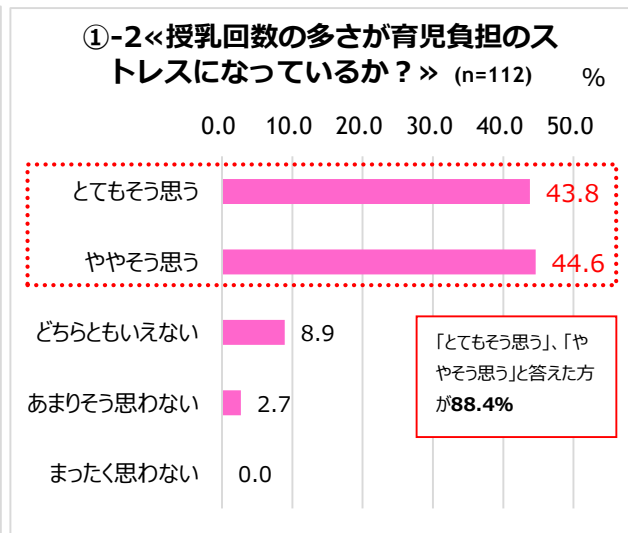
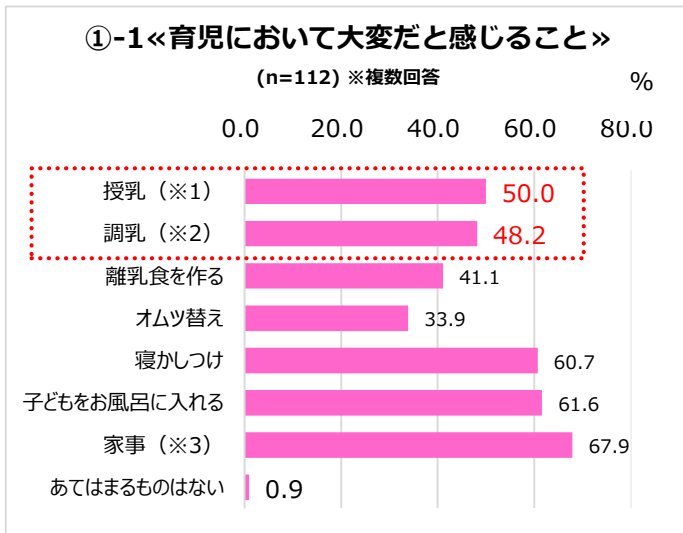
【調査指導】岐阜県立看護大学看護学部教授 服部律子先生、NPO法人ぎふ多胎ネット 糸井川誠子理事長

【調査協力団体】NPO法人ぎふ多胎ネット、NPO法人つなげる、しずおか多胎ネット、多摩多胎ネット、一般社団法人あいち多胎ネット、ひょうご多胎ネット

調査結果

① 多胎育児をする母親の約9割が「授乳回数の多さ」にストレスを感じている

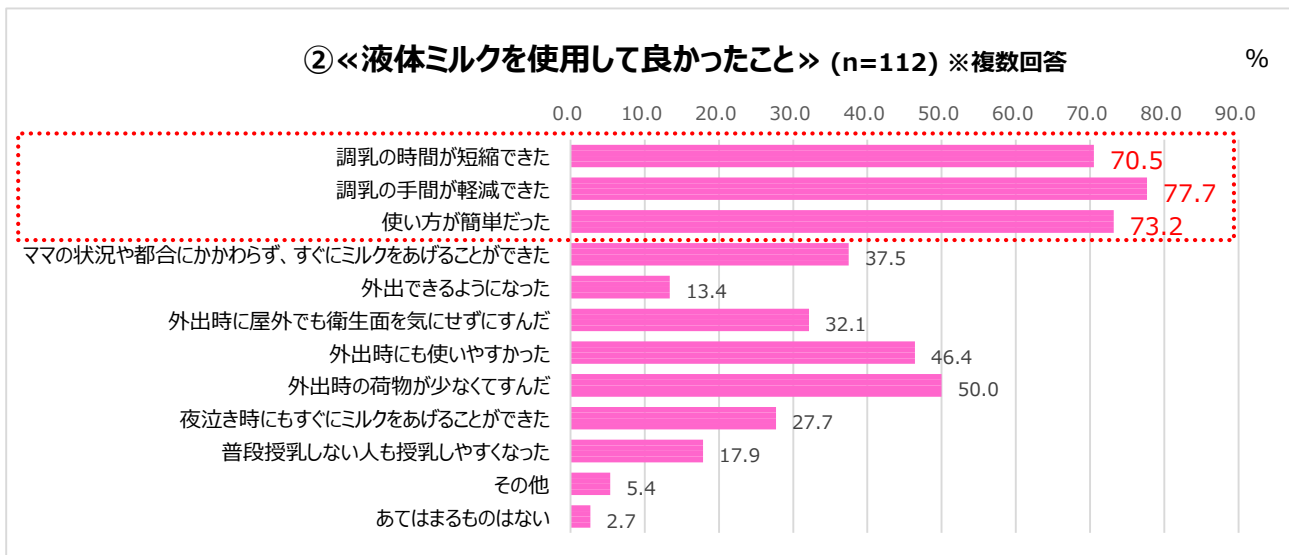
今回の調査に協力いただいた112名の母親に対し、液体ミルクの提供前に「育児において何が大変だと感じているか」をお聞きしました。この問いに対し、「授乳」が50.0%、「調乳」が48.2%と、約半数の母親が「授乳・調乳」について大変だと回答されました（グラフ①-1）。また多胎育児においては授乳回数も増えるため、「授乳回数の多さが育児負担のストレスになっているか」の問いに対しては、「とてもそう思う」が43.8%、「ややそう思う」が44.6%と、実に88.4%の母親が授乳回数の多さがストレスに繋がると感じていることが分かりました（グラフ①-2）。



※1：授乳とは、哺乳あるいは粉ミルクを赤ちゃんに与えることを指します
 ※2：調乳とは、粉ミルクを湯で溶いて、乳児の飲用に適した状態のミルクを作ることを指します
 ※3：家事とは、炊事、洗濯、掃除、買い物などを指します

② 液体ミルクを使用した母親の7割以上が「調乳の時間や手間が軽減された」と、利便性を実感

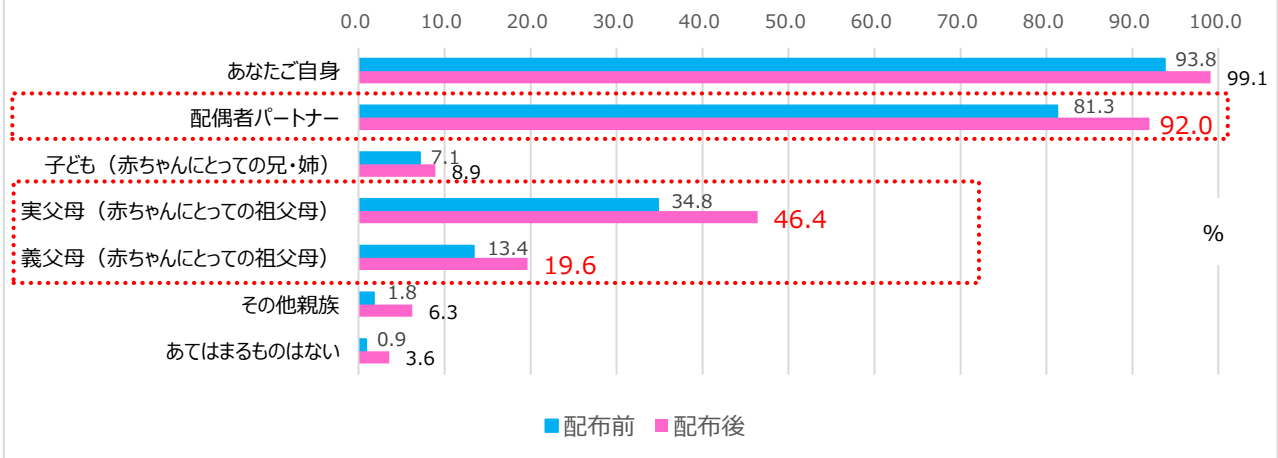
液体ミルクの配布後アンケートにおいて「液体ミルクを使用して良かったこと」についてお聞きしたところ、70.5%が「調乳の時間が短縮できた」、77.5%が「調乳の手間が軽減できた」、73.2%が「使い方が簡単だった」と回答しました（グラフ②）。多忙な多胎育児において、7割以上の母親が液体ミルクの利点を実感したことが分かりました。



③ 授乳者は、配偶者/パートナー、祖父母などに広がりを見せ、ワンオペ育児脱却にも効果

また、液体ミルク配布前に「家庭で日常的に授乳に関わっている方」を、配布後は「実際に液体ミルクを使って授乳をした方」についてお聞きしました。回答を比較した結果、母親以外で授乳に関わる方の割合は「配偶者/パートナー」が81.3%から92.0%へ、「実父母」が4.8%から46.4%へ、「義父母」が13.4%から19.6%へと、母親以外の授乳者が増えていることが分かりました（グラフ③）。粉ミルクと比べ簡単に調乳・授乳することができる液体ミルクが授乳者の多様化を促しており、その結果、過酷なワンオペ育児からの脱却に大きく寄与していることがうかがえます。

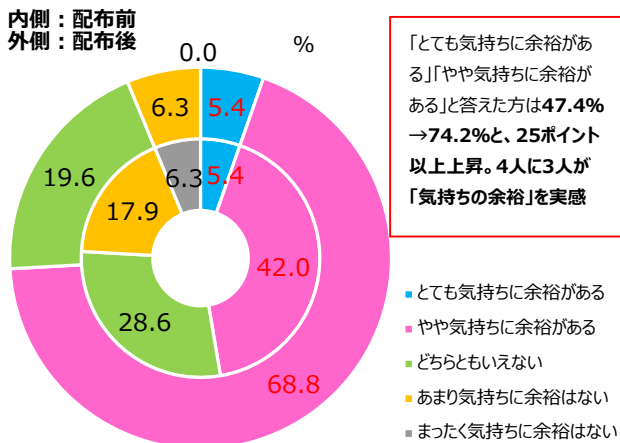
③ <<液体ミルクで授乳をした方>> (n=112) ※複数回答



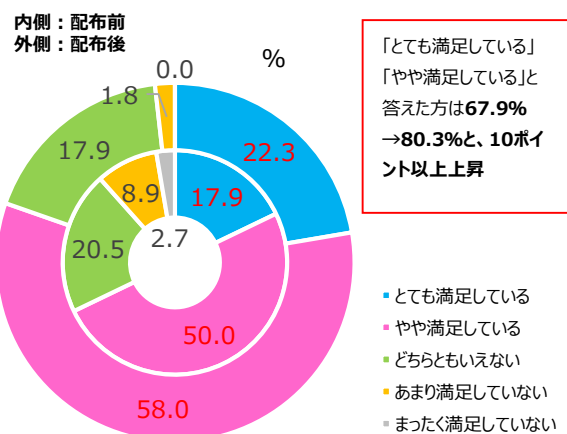
④ 液体ミルクの使用は、「育児に対する気持ちの余裕」を増加させ「生活の充実度」向上に寄与

液体ミルクの配布前後で「育児についてどの程度気持ちの余裕を持っているか」をお聞きしたところ、「とても気持ちに余裕がある」「やや気持ちに余裕がある」と答えた方は、配布前の計 47.4%から、配布後は計 74.2%と 25 ポイント以上の上昇が見られました (グラフ④-1)。同様に「生活の充実度についてどの程度満足しているかとの問いにも、「とても満足している」「やや満足している」と答えた方は、使用前の計 67.9%から、使用後は計 80.3%と 10 ポイント以上上昇する結果となりました (グラフ④-2)。日常的に液体ミルクがある生活が母親に気持ちの余裕を与え、それが生活の充実度にも繋がっていることが分かりました。

④-1 <<育児に対する気持ちの余裕>>(n=112)



④-2 <<生活の充実度>>(n=112)



調査にご協力いただいた母親からの声（自由回答から）

- 初めは哺乳瓶を洗う手間は変わらないし、少しの負担軽減くらいかと思っていたけれど、実際に試してみると、調乳の負担が大幅に減り、気持ち的にもすごく楽になりました！夜中の授乳で起き上がらなくても準備が出来るため、身体を休めることができ、ありがたかったです！
- 液体ミルクは粉ミルクを作るときにかかる手間がはるかに楽で、外出する際の手間や気分も軽くしてくれました。液体ミルクがあるだけで精神的にも楽でした。
- 赤ちゃんを待たせずすぐにミルクをあげられる事がとても良かったです。
- 準備が簡単で説明をほとんどしなくても、自分以外の人にミルクを準備してもらえるのが良かった。(粉は何杯、お湯を何 ml 入れて！とかの細かい指示がいない) 常温でも使用できるので外出時に急にミルクが必要になっても場所を選ばずのませられること、災害時にも使えるという安心感が良かった。
- 完全母乳なので普段はミルクを使用しておらず主人に授乳を担当してもらうことはありませんが、今回の試みに参加させてもらったことで主人が授乳する良い機会となりました。
- 双子の育児において調乳の手間が苦痛だったが液体ミルクを経験してそれがなくなった。赤ちゃんを泣かせて待たせてしまう時間も私のストレスも減った。使い切りサイズが良かった。夫にも使いやすいと好評。

オピニオン

岐阜県立看護大学教授

一般社団法人日本多胎支援協会理事：服部律子先生

多胎児の母親の子育てについて、この調査から日常の調乳授乳の手間やそれに関する問題がよくわかりました。多胎家庭にとって、授乳や調乳の負担が相当なものであり、液体ミルクで負担が軽くなったという方が 70%以上、気持ちに余裕が見られたという方が 80%以上おられたことは、注目に値すると思います。多胎育児には、母親や家族の心身の負担を減らし気持ちの余裕を持つことが大事です。そのために時間短縮、誰にでも使える液体ミルクは非常に有用なのです。

